

Heroldo de HEL

N-ro 72

1998 februaro-marto

ORGANO DE
HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

053-0844

苫小牧市宮の森2丁目18-18 星田 淳 方

HOKKAJDA ESPERANTO-LIGO

ĉe Acuŝi HOŝIDA

Mijanomori 2-18-18, TOMAKOMAI

053-0844 Japanio

ENHAVO

Kunloĝado en majo

5月合宿

2

Ĉu "La Granda Frato" en Interreto
インターネットは盗聴されている!?!
エスペラントニュース(soc. culture.
esperanto)での議論

Acuŝi HOŝIDA 星田 淳 4

Anonco お知らせ

◦Libro-Servo de H, E, L (エスペラント
図書常設展示販売所)オープン

◦不要な本を図書部に寄付してください
◦札幌大学図書館のエスペラント蔵書

5

Bildlibro kun Esperanto^a teksto en
Paralimpikoj en Nagano

長野パラリンピックにエスペラント入
り絵本

Acuŝi HOŝIDA 星田 淳 6

Kejko SUZUKI 鈴木佳子 7

書評「antologio de amoro」

Yuka KAŬAI 川合由香 8

Letero 手紙 三ツ石 清 9

Danke ricevitaj-受領郵便物 10

Korespondado inter HEL kaj Vladivo-
stoka Esperanto-Klubo

ウラジオストックエスペラントクラブ
との交流

Acuŝi HOŝIDA 星田 淳 11

Raporto de la 3-a komitata kunveno
de HEL 委員会報告, 12

El redakitejo 編集部から

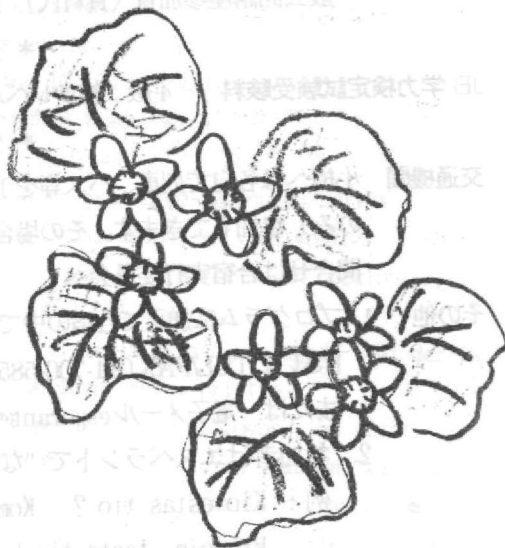
春を迎えていかがお過ごしでしょうか?

5月は合宿の月です。5月16~17日
に小樽市で開催されます。2~3頁に記事
がありますので、内容を読んでぜひともご
参加ください。“なぞなぞ”を考えてくる
ことをお忘れなく。

エスペラント図書の常設展示販売所は、
中通りにあるので初めての方はわかりにく
いかもかもしれませんが、交通の便は地下鉄南
北線麻生駅から徒歩約3分と良好。どんな
本があるかご自分の眼で見てください。遠
方の方には「図書リスト」の送付サービ
スもごさいます。記事は5頁に。

北海道大会は、10月17~18日開催
の予定で準備中です。

(Ejko ABE 阿部映子)



5月16日、17日は小樽に集合!

5月 とてもいい季節ですね。さて、今回の合宿は小樽です。かつて小樽はとてもエスペラントが盛んだったところ。現在、小樽在住のエスペランチスト、エスペラントに関心のある仲間はあるものの、なかなか一堂に会してとはいかないようです。そんな仲間を励ますとともに、さらに市民の間に再びエスペラントの風をおこしてみようではありませんか? 奮ってご参加下さい。

参加申し込み締め切り 4月末日(学力検定試験受験者も同様)までをお願いします。

尚、5月5日以降の宿泊キャンセルは、会場の都合によりキャンセル料がかかります。あらかじめご了承下さい。

参加申込先: 合宿実行委員会

(小樽) 小樽市末広町 20-30 末広マンション 2号 加藤様方 TEL 0134-34-4963

(札幌) 札幌市北区麻生町 1-3-13.3F ロンデタージョ TEL/FAX 011-717-4189

会場 5月16日(土): 小樽市生涯学習プラザ TEL 0134-24-3363 小樽市富岡 1丁目 5-1

(小樽駅より徒歩約5分、稲穂小学校隣)

宿泊及び: おたる自然の村 TEL 0134-25-1701 小樽市天狗山 1丁目 国有林野 152 林班

17日(日) (小樽駅より車で20分)

参加費	宿泊 有 (一泊朝食付)	5,000 円	高校生以下	宿泊有	実費分
	宿泊 無	2,000 円		宿泊無	無料
	一般公開講座参加費(資料代)	200 円			

* 交通費、夕食バンケード代は各自負担です。

JEI 学力検定試験受験料 4級(初歩レベル) 1,000 円 3級(基礎的レベル) 2,000 円

* 受験料は合宿参加費とは別にかかります。

交通機関 小樽へは各自で列車、バス等を予約してください。尚、自家用車の乗車で(札幌-小樽のみ)参加もできます。その場合、ガソリン代、高速代が頭割りとなります。

問合せは合宿実行委員会へ

その他 1. プログラムに加えて合宿の中でやりたいことがあれば、事務局長 佐藤英治までご連絡下さい。TEL/FAX 011-700-5851 札幌市西区八軒 10条東 2丁目 2-11

または 電子メール: esperant@ka2.so-net.or.jp

2. 参加者はエスペラントで“なぞなぞ”を一つ考えてきてください。

例: Kio estas tio? Komence tio havas unu kruron, poste tio havas du krurojn, laste tio havas tri krurojn. Tio estas homo.

3. 学力検定試験受験者にかかわらず希望者には模擬試験用紙を事前に送付します。試験対策に役立ててください。合宿会場にて添削も受け付けます。

5月合宿プログラム (予定)

5月16日(土)			会場
13:15~	受付		
13:30~	「エスペラントで遊ぼう」 ゲームを中心に楽しくエスペラントを学びましょう。	一般向け エスペラント入門講座 講師： セルゲイ アニケイエフ氏	生涯学習プラザ
14:20~14:30 休憩	プロフィールゲーム		
15:20~15:30 休憩	なぞなぞゲーム ジェスチャーゲームなど		
16:30			
17:00	夕食交流		小樽市内
18:30	(移動)		会場近く
19:30	チェック・イン(宿泊) プロジェクタ・テアーマシン バンケード		おたる自然の村
5月17日(日)		* 朝食前に展望台まで散策してみましよう。	おたる自然の村
7:00	起床・散策		
8:15	朝食		
9:00 ~	ゲーム普及版の検討	JEI 学力検定試験 4級(初歩レベルの筆記、会 試験) 3級(基礎的レベルの筆記・ 法と簡単な日常会話の試験)	
10:00~	「極東交流の可能性について」 一般の参加者も大歓迎	~セルゲイ氏を囲んで~	
12:00	終了 解散	終了後、連盟委員会開催	

会場案内図

生涯学習プラザ JR小樽駅より徒歩約5分

おたる自然の村 JR小樽駅より7km、車で約20分



HOSIDA Acusi

前から噂はありましたが、最近インターネットニュースで、この件の具体的な例について議論が交わされています。CIA のどこかの部局だろう、という Simon Payne に対し、いや、それは CIAではなくて NSAだ、との米国人読者からの説明。いづれにせよ、民間人の通信が政府機関に監視されている、という点では同じこと。La Granda Frato は、個人の生活まで監視管理される未来社会を予想した、ジョージ・オーウェルの作品でした。

Article 127 (3372/3436) in s.c. esperanto:
From: 100103.24@compuserve.com (Simon Payne)
Subject: La Granda Frato
Date: 1 Mar 98 08:30:20 GMT

Onidire Interreto estas la enkarigo de libero. Ankaŭ mi iam kredis tion. Tamen jam en la ne tre fora pasinteco mi ne povis ne konstati, ke ĝi tute ne estas tia, ĉar tre evidente unua Interretano povas kun vere mirinda facilbarto la reton al alia Interretano. En tiu kunteksto mi uzis la vorton "Adolfeto" pri tiaj baremoj, kio sendube ne plaĉis al ĉiuj legantoj de tiu forumo.

Aldone mi tute persone suferis je tre arbitra cenzurado en distribua retposta listo, afero, kiu same iomete ŝancelis mian kredon pri la preskaŭ proverba libero de Interreto. Sed nun ŝajnas, ke en Interreto ni timu ne nur iujn Adolfetojn kaj cenzuristojn, aldone la Orvela Granda Frato observas nin. Jen la faktoj.

Mia filo laboras tiu momente ĉe speco de investada entrepreno. Tiu entrepreno peras investojn en akcifondusoj al ĉeno de individuaj investkonsilantoj kaj investfirmaetoj. Por la distribuado de informo kaj por la tuta komunikado inter la abonantoj, la entrepreno kaj la akcifondusoj oni eksklude uzas Interreton kaj retposton. Fakte jam la TTT-servilaro de tiu entrepreno estas vere impona instalajo, des pli pro tio, ke la entrepreno naĝas en mono.

Nu, antaŭ kelkaj semajnoj tiu entrepreno decidis enkonduki ĉifradon por la tuta retposto inter si kaj la akcifondusoj. Tiucele oni komencis intersekve funkciigi kaj testi la ĉifradon po-partnere. En tuta Eŭropo tiu afero funkciis senprobleme. Iam, tamen, oni atingis la unuan Usonan partneron. Jam ĉe la plej unua testo kun la plej unua Usona partnero, la afero tuj fiaskis.

Anstataŭ la atendata ĉifrita respondo de la Usona partnero al la unua ĉifrita mesaĝo revenis tute ne ĉifrita retpostaĵo de stranga

Usona oficejo. Tiu informis, ke la plurbiteco de la ĉifrado estas tro granda kaj ke tio estas kontraŭ Usona leĝo. Aldone oni minacis maksimume procesi kontraŭ ĉiuj kunagantoj, se dua tia mesaĝo iam alvenos en Usono! Ne nur tio, la sendita ĉifrita mesaĝo tute ne atingis la adresaton!

Do, kion oni konkludu? Aŭ estas tiel, ke iu divizio de CIA novdate monitoras la tutan retpostan trafikon inter Usono kaj eksterlando, aŭ estas tiel, ke tia divizio tre cele okupiĝas pri industrispionado kaj pro tio specife interesigas pri la metodoj de investperantoj.

Ĉiokaze la Granda Frato laŭ Orvelo estas jam inter ni kaj evidente li rezidas en Usono. Tio estas por mi des pli soka, ĉar mi ĝis nun firme kredis, ke la Interreta Granda Frato agas nur en Ĉinujo.

Brava nova mondo! Simono

E-mail from: Simon Payne, 28-Feb-1998
Article 108 (3407/3557) in s.c. esperanto:
From: don@donh.vip.best.com (Don HARLOW)
Subject: Re: La Granda Frato
Date: Sun, 01 Mar 1998 20:12:53 GMT

Unue, eble estus bone ne kulpigi la CIA-on pri tiaj aferoj; generale, ili falas sub regado de NSA ("National Security Agency"). Due, mi dubas, ĉu temas pri spionado kontraŭ investperantoj. La (publike reklamata) danĝero estas, ke temas pri ĉifra metodo, kiun NSA ne povas malĉifri sen la koncerna ŝlosilo. La registaro ne volas permesi, ke ordinariaj unuopuloj (aŭ eĉ kompanioj) disponu pri kapablon krei mesaĝojn, kiujn la "aŭtoritatoj" ne povas (laŭvole aŭ laŭbezone) legi; certe, ili insistas, se tio okazos, tiajn metodojn utiligos ne nur investperantoj, sed ankaŭ la Saddam-Husejnoj kaj la Cali-Karteloj de la mondo.

Ĉu tiaj minacoj estas validaj, aŭ sufiĉe validaj por senigi vin kaj min de la rajto privatigi niajn mesaĝojn, nu, pri tio vi mem juĝu. Don HARLOW

★ Libro-Servo de H, E, L (エスペラント図書常設展示販売所) オープン!!

図書部から皆さんに嬉しいお知らせです。エスペラント関係の図書がいつでもみれる常設展示販売所がロンデタージョにオープンしました。エスペラントの図書に触れる機会が以前にも増してグッとふえたと思いませんか? 現在図書部の販売図書リストには96種類の図書名が掲載されています。ご希望の方にはこの「図書リスト」をお送りします。封書にて80円切手同封の上、図書部までお申し込み下さい。

また、ロンデタージョの図書常設展示販売所においての際は、事前にお電話下さい。

ロンデタージョ : 札幌市北区麻生町 1-3-13.3F TEL 011-717-4189

(地下鉄南北線 麻生駅下車 徒歩約3分)

★ 不要な本を図書部に寄付してください。

本棚に眠っている本はありませんか? 気がついたら2冊買っていたとか、残念ながらもう読まないだろうとかといった本。そんな本を図書部に寄付してください。普及本は、廉価で販売したいと思います。あなたには不要なものも他の誰かにとっては貴重な本になることでしょう。貴重な本は連盟の蔵書として展示、貸し出ししたいと考えています。

連絡先: 連盟図書部 宮沢

TEL/FAX 011-717-4189 001-0045 札幌市北区麻生町 1-3-13.3F

★ 札幌大学図書館のエスペラント蔵書

これは戦前からの「北海道エスペラント連盟蔵書」でした。1932年の北海道エスペラント連盟創立メンバーだったS-ro 福田仁一が42年満州国(現中国東北部)へ移る時連盟へ寄贈したものが始まりでした。昨年亡くなられたS-ro 高橋要一宅に長く保管されていましたが、74年6月の北海道エスペラントセンター発足後、新しい文献も加えてこのセンターで展示、閲覧・貸出を行うようにしました。

1981年8月の北海道エスペラントセンター閉鎖により、蔵書はS-ro 三沢正博の研究室(教育大学)に置かせていただくことになり、このころS-ro 三沢の編集した「北海道エスペラント連盟所蔵エスペラント文献目録第1部戦前編」がLEONTODO N-ro 68(7-1982)に出ています。その後札幌大学に寄贈され、90年頃から閲覧に供されています。

約250冊の内容はかなり広く、古いものは1907年にパリで出た小説、辞書、同じ年に日本で出た最初の学習書、二葉亭四迷の「世界語読本」等から1980年代まで。永田明子さんの著書もあります。

この図書館は一般市民も自由に利用できます。また、最寄りの図書館を通じて借り出すこともできます。内容目録はHEL(星田)、SES(馬場)にありますので、希望される方は申し出てください。今では手に入らない貴重な文献がたくさんあります。活用したいものです。

長野パラリンピックにエスペラント入り絵本

HOSIDA Acusi

パラリンピック選手たちに配られた多言語絵本にエスペラント文が入っています。

「パラリンピックに絵本をプレゼントする実行委員会」は、北海道大学関係者、外国人留学生たちの協力を得て多言語絵本「プーズの夢「森のいろはカルタ」を作り、パラリンピックに提供しました。使用言語は 日本語、英語、ロシア語のほかスペイン、ポーランド、スロバキア、オランダ、フランス、ノルウェー、アラビア、フィンランド、イタリア、ドイツ、中国、スウェーデン、韓国、ブルガリア、ヒンズー、ルーマニア、エチオピア、

アイヌ、エスペラント の諸語が入っています。

この絵本の作者菱川摩耶さんは札幌に住む15才の少女(今年高校に入学)で小さいときから好きだったふくろうの住む森を守ろうとの気持ちから絵本を作ったとのこと。内容は森や自然を守ろうとの呼びかけですが、Samideanino 鈴木佳子が実行委員会にエスペラントのことを話したら、入れてほしいとの話になり、ほか2人も協力してエスペラント文を入れました。この絵本は今年の北海道大会の記念品にと予定されています。

森のいろはカルタ

Mori no Iroha Karuta

17カ国語 翻訳版



地球は家族
The earth is our family

絵と文
菱川 摩耶
Pictures and texts: Maya Hishikawa

ESPAÑOL SPANISH	スペイン語	2
Język polski POLISH	ポーランド語	4
SLOVENKO SLOVAK	スロバキア語	6
NEDERLANDS DUTCH	オランダ語	8
FRANÇAIS FRENCH	フランス語	10
NORSK NORWEGIAN	ノルウェー語	12
العربية ARABIC	アラビア語	14
ITALIANO ITALIAN	イタリア語	16
SUOMI FINNISH	フィンランド語	18
DEUTSCH GERMAN	ドイツ語	20
汉语 CHINESE	中国語	22
SVENSKA SWEDISH	スウェーデン語	24
한국어 KOREAN	韓国語	26
БЪЛГАРСКИ БЪЛГАРSKI	ブルガリア語	28
ROMÂN RUMANIAN	ルーマニア語	30
हिन्दी HINDI	ヒンズー語	32
አማርኛ AMHARIC	エチオピア語	34
ESPERANTO ESPERANTO	エスペラント語	36
AINU	アイヌ語	38

19 言語の訳 —絵本『森のいろはカルタ』— パラリンピック参加選手に寄贈

ことは冬季オリンピックが長野で開催された。オリンピックの興奮もさることながらその後のパラリンピックも日本中を沸かせたことは記憶に新しい。

さてそのパラリンピックの各国からの参加選手、役員約 1200 人へ『森のいろはカルタ』が寄贈された。これは、—世界の人に森の大切さを知ってほしい— 札幌市内の中学 3 年生、菱川摩耶さんがその願いを込めた絵本を北大の留学生らを中心に 19 の言語に訳したものだ。絵本は、フクロウと森をテーマにした「いろは・・・」の四十六枚のかるた。これをスペイン語、ポーランド語、ノルウェー語、ブルガリア語、等に訳されているのだが、見逃せないのはエスペラント語と、アイヌ語があること。特にアイヌ語は北海道から発信されるこうした出版物だからこそ、先住民族アイヌの言葉が盛り込まれていることは重要なことだ。現に新聞報道などを通してのその反響の大きさが伺える。また、一つの日本語の単語に対応する各言語の表現を見比べていると、各言語間の共通性や相違などに気づかされたり、エスペラント語との類似性を見つけたりといった楽しさも味わえる。現在、LKK では、この『森のいろはカルタ』翻訳版をことしの道大会の参加者への記念品にと検討もしている。

あれは今年の 12 月だった。たまたまアメリカ人の友人の呼び出しに気をよくして、他の仲間と押しかけた先でのこと。クリスマスパーティーかとおもいきや、留学生達の定期的な会合であった。そこで北海道大学留学生センターでアドバイザーをしている関道子先生にお会いした。（そう、ここで関先生に会わなければ、この訳本の話はなかっただろうと思う。）「大学の仕事ではないんだけど、この絵本の訳本をつくってパラリンピックの参加選手に贈ろうという計画があるの」とみせられた絵本が『森のいろはカルタ』。「留学生達に依頼して 30 ケ国語位に訳したいの」との話しに、「実はエスペラントをやっているんです。」と私。「それじゃ、エスペラント語で訳してもらえないか」との依頼に「私、やりたい」といってしまった。フクロウのかわいらしい絵と 46 の「いろはカルタ」のやさしい表現に、初心者の方が取り組むには手頃かと思ってしまった。しかし、これ大いなる誤り、依頼を引き受けてしまったことも恐いもの知らずの発言であったことに気づいたのは、実際に訳の作業に入ってからのことだった。後の祭とはこの事だ。やさしい表現などというこの曖昧さ、いろはカルタは、いわゆるイメージの世界を言語を用いて表現するようなもので、俳句や短歌を他言語へ訳するのと同じようなものである。悪戦苦闘の末、星田委員長の添削、助言を経て訳を完成するにいったが、できあがった訳本の立派さとあいまって、これが各国の選手たちに配られたのかと思うと思うたび、我が訳の稚拙さに赤面する次第です。

鈴木 佳子

書評 「antologio de amoro」

川合由香

「大人のための」libreto である。筆者は昨年 11 月の道大会で本書を購入した。“amoro”という単語を知らなかったので見過ごすところだったが、そばにいた某氏が「ポルノですよ」と教えて下さったので、喜んで買ってしまったのである。

中身は 8 つの章から成っており、はじめの章は「La tagiĝo」, 「La espero」のちょっと H な替え歌である。昨年の SES のザメンホフ祭で歌われたという「替え歌」ってこれらのことだったんだらうか？

筆者がいちばん気に入ったのは、“dialogo”という章である。“de Tange koiti”と但し書きがついていたので、期待と妄想をふくらませつつ、辞書を引きひき（見慣れない単語が頻出するため）読み進めた。章末の「対話」が味わい深い。引用すると、

“...”

“Vi...ĉu vi...”

“Ki...o?”

“Mi amas vin, mi ...amas...mi mortos...mort...”

“Ho,an...kaŭ...mi...jam...”

“...”

いかがでしょうか？

amoro に関する語彙や言い回しばかりを覚えても、海外旅行の足しになるとは思えないが、ベッドのなかでの国際交流には役立つかもしれない(?)。日本語のようにはすらすらと読めないことが、かえって興奮を誘うように筆者には思われた。

カーマ・ストラの抜粋あり、江戸時代の小話ありで、どこからでも楽しく読める、おすすめの一冊である。

londetago の HEL 販売図書に在庫あり。出版元オランダ。全 95 ページ、800 円。

(名古屋の三ッ石清さんから久しぶりに手紙が届きました)

98-03-04

名古屋、シーラカンス

啓、御無沙汰しています。HEROLDO に新刊の S. Engholm の短編集を読んだので、紹介記事を書きます。

WALKING STICK CAR (手押し車)でなんとか歩くが歩けるうちにと思い、今年は九州、関西、北海道の各大会に、日本大会にも参加するつもりです。

Tre kara samideanino,

Ĉu vi plendos por ke mi ne adresas vin en nia verda lingvo? Vi rajtus senti malkontentiĝon kontraŭ mia emo ne skribi en Esperanto. Kvankam lastatempe mi kutimas japane skribi al gasamideanoj, ĉiutage mi entuziasmigas en legado de Esperanta literaturaĵo. Mi mendis al KLEG novelaron de Stellan ENGHOLM (La lupo sur Kapitolo), kaj dudek tagojn poste, ĝin jam tralegis ripete dufoje, kaj plue hieraŭ literaturan revueton (RIVEROJ) n-ro 19, 18 17 mi rapidis tralegi kun ega interesiĝo, nome Takasugi itirō (FORFLUOJ)n, kaj (MAMOJ)n-novelo erotikisma-, la unua estus leginda. Miaj okuloj iom malboniĝas, tage mi bone legas, sed sub elektra lampo legado malfaciliĝas. Konsekvence nokte mi ĝuas ĉefe televidon. Ĉu mi rajtas min nomi via samideano? Ĝis reskribo, via M

追記：ワープロ入力は何んでもないのですが、原稿を書くときに、正確を期するために、書棚から参考文献を出して机まで運ぶのが大変、脚が悪いのでね、室内で倒れるとピンチです。

インターネットのホームページとか、エスベランチストのグループに接続するために、モデムを付けるとインターネットにつながる、東芝の高級ワープロを買った。しかし、クレジットカードを持たない僕は (NTT以外の回線の料金の支払いは Credit card 支払い) Provider (回線設備業者) に加入できない。弱った。いやはや。

NIFTY はだめでも、PEOPLE には、加入できるかも知れない。また、 M

*Al Vi Kara:N-ro81(1997Jan.),京都エスペラント会、B5 X28頁のうちエスペラント文は6頁。その大部分が Deklaracio de Homarano ホマラーノ (人類人) 宣言。おまけなしの旅・ポーランド (田平正子) が連載中。

*Eskalo 第71号、1998年1月、川崎エスペラント会、B5 X8頁のうちエスペラント文4頁弱。4年ぶりの神奈川ザメンホフ祭を、「どうせやるなら楽しく、面白く」と外国人同志などに話してもらうなど一般市民向けの盛りだくさんのプログラムを組み時期も11月にずらしてエスペラント・フェスティバーロと名を変えて開いたら、史上最大 (? 88名) の参加者になった話も。

*Hokkaidô Rômazî Kenkyû No.95 (復刊69) 北海道ローマ字研究会発行、Hs.9n.1gt.20nt. とあるが Hs.10n.のはず。受贈資料の欄に Heroldo de HEL 大会報告号に「大会行事は--多彩。参加者の総数が133名は立派。」との評。

*LA TAMTAMO: 第287号(1998年1月号) 横浜エスペラント会(JER), A4 X8頁、日本文。1998年度総会の資料が実に細かい。年末までの活動予定表も行事でびっしり。

*Mejlstono 1998/1, n-ro 145, 仙台E会 B5X20頁。菅原慶一追悼号でエスペラント文なし。

*Novajoj Tamtamas:n-ro133, januaro 1998, A4X4頁、全文エスペラント(JER) Birdoj en urbo は3ページにわたる十種類鳥の図鑑も含む野鳥関係の解説。

*VoJo SENLIMA:No.139 Januaro 1998, 熊本エスペラント会、B5 X8頁、日本文。ここでは県内の図書館、学校図書館、教育委員会等へエスペラント関係の本を配布する活動を続けている。

*衆議院議員児玉健次国会通信 1998年1月

*VERDA MONTETO:Januaro, Februaro 1998, 和歌山, N-ro 98; 変形B5版 X8頁のうちエスペラント文は対訳1頁。ベトナム訪問記が連載中。もう来年になった第2回アジア大会の土地だ。

*国勢報告と交流・懇談の夕べのご案内 1998.2 日本共産党衆議院議員北海道事務所・日本共産党・紙智子事務所

*北海道ローマ字研究会の会長交代の通知, Hs.9n.2gt.15nt.(横田前会長よりののがき): 新会長は ☎065-0021札幌市東区北21東19の1の13 柄内和男(昔のSES会員)。H.de HELは今後こ

ちらへ送ることになる。

*NOVA VOJO:1998.2 (N-ro 327 februaro), 大本エスペラント普及会, A5 X32頁、内エスペラント文約9頁。恒例の越年エスペラント研修会は韓国の経済事情悪化で17人が参加を取りやめたとのこと。Perspektivo(Joel Brozovsky) はいつもながら日常身近な話が国際的なものへつながっていき、エスペラントによる国際的文化が築かれていく、との感じがする。しかし、この(対訳の)日本文だけ読まず、原文(エスペラント文)で理解するようにしたい。

*センター通信:1998年2月23日名古屋エスペラントセンター発行 N-ro202, B5X12頁のうちエスペラント文1頁。コンピュータ通信でのエスペラント活用の記事が4頁。

*La Movado N-ro 564 feb. 1998, B5版16頁の内エスペラント文は3頁。

*La Movado N-ro 565 mar. 1998, B5版20頁の内エスペラント文は3頁強。今年の日本大会の地金沢の pioniro S-ro 松田周次が日中戦争に反対し陸軍刑法違反として有罪判決を受けたことが「いろいろ考えること:星田淳」に出ている。

*受講生通信 第57号 1998-03-01:沼津エスペラント会通信講座:B5X16頁のうちエスペラント文は合計1頁弱。1998年の催し紹介に北海道エスペラント合宿が出ている。新受講生紹介に初級4人、中級66人の名がある。大盛況!中級新受講生の榊原凱彦さん(北海道江別市)は「外国文学を翻訳したいと考えています」、及川ゆき子さん(愛知県)は「E歌90曲歌いまくり、E合唱団に参加する、E訳された日本の歌を全部1冊の本にまとめる--」等大志を抱く人がいてたのもしい。

*PONTETO 1998年3月号 N-ro 168, 1a 15an de marto, 1998:関東エスペラント連盟:B5X12頁のうちエスペラント文は6頁。内3頁は GRIMPADO DE LA MONTO KILIMANGHARO(Tachikauua Seighi).

*NOVA VOJO:1998.3 (N-ro 328 marto), 大本エスペラント普及会, A5 X32頁、内エスペラント文12頁。

*Eskalo 第72号、1998年3月、川崎エスペラント会、B5 X10頁のうちエスペラント文3頁強。

*La Movado N-ro 566 apr. 1998, B5版20頁の内エスペラント文は約4頁。

HOSIDA Acusi

昨年の大会ではELNA (北米エスペラント協会) の Miko の活躍で大いに助かりましたが、今年の大会ではすぐとなり、日本海の向こうの Vladivostok から来てもらおうと交渉中です。以下交信記録の一部 (★は受信、☆は送信) です。文中7月までの活動予定を見ても、向こうの運動は実に活発ですね。

★#06335273 98/03/05 11:23:50

発信者: Alexandr B. Titaev

受信者: MCM63639 星田 淳

文書名: Vladivostok

Kara samideano HOŠIDA Acusi, bonan tagon.

Ni- ĉiuj membroj de E-klubo "Pacifiko" estas kortuŝitaj de via amikeca propono - partopreni la 62-an Hokkajdan Esperanto-kongreson kiel via gasto kaj fari la necesajn kontribuojn. Dum la kluba kunsido ni diskutis kelkajn kandidatojn, ĉar

1) ni ĝuste nun ne scias, kiu povos veturi al vi oktobre,

2) ne ĉiuj havas la novajn eksterlandajn pasportojn.

Jen estas la kandidatoj: Galina POLJANOVA (sino), Andrej ŜIPILOV, German DUDĈENKO, Aleksandr TITAJEV (3 s-roj). Nur al fino de Aprilo ni povos komuniki la pasportajn donitaĵojn, kaj, verŝajne, kandidaton.

Ankoraŭfoje koran dankon.

Sincere via Aleksandr Titajev

Jen nia lasta novaĵo:

SEMAJNO DE INTERNACIA AMIKECO

EN VLADIVOSTOKO

En Vladivostoko/RUSIO/ la 28-an de Februaro 1998 surbaze de la Junulara centro de la Teknika Universitato estis aranĝita la vespero, dedita al la Tradicia Semajno de Internacia Amikeco. Ĉeestis pli ol 30 esperantistoj kaj gastoj, precipe la vladivostokaj studentoj kaj lernantoj.

La prezidanto de la Esperanto-klubo "PACIFIKO" Aleksandr TITAJEV rakontis pri la historio de Semajno. La kantoj de la diversaj landoj plenumis ruse kaj esperante la ensemblo "Melodio" gvide de Vladimir Ŝevĉinskij

kaj ties solisto Stanislav Mickeviĉ. La junulara grupo de la klubo gvide de Andrej Ŝipilov prezentis esperanto-teatraĵetojn. Kaj, kompreneble, la partoprenintoj kantis, sercis, ridis, dancis kaj teumis....

P.S. Ni memorigas al vi, ke ĉi-jare-1998 en Vladivostoko okazos:

1) La Studenta scienc-teknika konferenco surbaze de la Teknika Universitato, enkadre de kiu funkcios la sekcio "Esperanto en Edukado, Scienco kaj Kulturo",

la 21-25an de Aprilo, 1998;!!!!!! >>>>>> Oni povas partopreni koresponde.

!!! Samtempe en la Universitato okazos la festivalo "Studenta primavero '98"

(20-29an de Aprilo, 1998)

2) la Junulara renkontiĝo "Vladivostokaj Esperanto-Tagoj, '98" /JURVET' 98/

la 1-6an de Julio, 1998 enkadre de la Urbaj naskiĝfestoj.

Nia adreso: Esperanto-klubo, Teknika universitato; 10, Puŝkinskaja,

690600 Vladivostok, GSP RUSIO

☆ 1 98/03/06 98/03/06 22:17

Hokkajda Esp.-Ligo respondas/HOŠIDA

Karaj gesamideanoj en Vladivostoko!

Kun ĝojo mi ricevis vian poŝton pri via vizito al nia Kongreso.

Ja tre vigla estas via agado. Ni deziras multon lerni de vi pri tio.

Mi esperas, eble ni povos iam viziti viajn kunvenojn, aŭ havi nian komunan kunsidon ĉe vi. Vespere de la 7/marto ni havos komitatan kunsidon de HEL en Sapporo, kie ni raportos viajn poŝtojn kaj diskutos pri nia plano de la Kongreso. Sincere via HOŠIDA Acusi,

Prezidanto de Hokkajda Esperanto-Ligo

第3回委員会報告

Raporto de la 3-a komitata kunveno de HEL

[日時] 3月7日(日)午後5時～7時30分

[場所] ロンデダージョ(札幌市北区麻生1)

[出席者] 星田 淳、サトウエイジ、後藤 義治、
宮沢直人、阿部 映子、川合由香、
鈴木佳子

[議事内容]

* 臨時提案

エスペラント運動の記録を残す必要がある。(SES総会で木村喜壬治さんから、もうそろそろ札幌や道内のエスペラント史を再編集する時期にきているのではという話があり、HEL委員会に阿部から議題として提案することになったもの)

古くから活動している人からの聞き取りを文章化して残す→SESの児玉、後藤、池田が中心となり実施する。

年間の活動を記録に残す→1986年に相沢治雄さんが出した北海道エスペラント運動史以後の活動について、HEL事務局が中心となって記録を整理することを考える。

* 事務局報告・提案

《図書部》

新年講習会以後に10,475円の売上げがあったが辞書が中心で利益は薄い。辞書を中心に図書を補充するため臨時支出が必要。→販売努力を続ける条件で支出を認める。

古本も取り扱いたい(同じ本を2冊持っている、もう読まない本があるといった人から寄贈または廉価で譲り受けて入門者や若い人に斡旋したい)→機関紙で協力を呼びかける。(5頁参照)

《新年講習会会計報告》

収入は、参加費19人分、バンケードカンパ、寄付で計79,150円。支出は、講師料、講師交通費、バンケードで同額に納まった。

《5月合宿》

とにかくエスペラントを話すことを中心にして、テーマは「エスペラントで遊ぼう」。辞書は必携(当日販売も予定)。JEI学力検定も実施する。事務局で案をまとめて機関紙に載せる。(2～3頁参照)

小樽市民向け入門講座を実施し、宣伝活動も計画したい。→HEL長期計画10万円の中

から支出検討。(会計から、教育宣伝費という費目は予算にないが決算時に実態に沿った適切な費目名で報告したいとの声→了承する)

《第62回北海道大会》

現在は、以下の予定で計画を進めている。10月17日(土)18日(日)に実施し、12日頃から札幌・苫小牧で大会前エスペラント講座や遠足、観光、交流会も企画。

中心会場は、苫小牧港湾労働者福祉センターで、同会場で市民向け講演会や展示も実施。

講師は、ウラジオストック在住のエスペランチスト等の案が出ている。→委員長、事務局局長が交渉して適任者を招待する。

千歳から飛行機直行便のあるオランダ、ハワイ、韓国等のエスペラント会に案内を送る。

参加費は昨年程度としたい。

《インターネット利用について》

JEIとは別に、HELのホームページを独自に開設する準備を進める(料金はJEIの軒下を借りる形でHELの掲示を行う場合と変わらない年間6,000円)。内容等の原案は、横山さんが作成中。

《機関紙部》

封筒在庫がないので印刷の必要がある。→了承する。

《会費、購読料のお願い》

96年度分未納者に対して督促を行う。

次回委員会

5月合宿にあわせて、5月17日朝又は合宿終了後に実施(朝は、時間が少ないので合宿終了後となる可能性が大きい)。

なお、5月16日のバンケード時にプロイェクタテアーモを開催します。

Heroldo de HEL

第72号(1998.3.31)

北海道エスペラント連盟機関紙

編集部 〒001-0012

札幌市北区北12西1パークMS602

阿部映子気付 電話011-756-2291

郵便振替口座

02700-6-17075

北海道エスペラント連盟